精神医学が記述精神医学, 力動精神医学, 社会精神医学と, それぞれの発展をみながらも, 精神科作業療法(以下OTと略)の理論的よりどこを求める時, 何か今一つたきとらないことがある. そんな時, 収まった本書の基本的な目標となる生活実験が, 分裂病者を, 生活している人一生活者とみる観点に立ち, その自立を助けるため, 継続的に生活相談にのっていく, いわば分裂病という疾患の治癒, 分裂病者の生き様を重視するという発想において, 共感できることが多い. しかも本書は, 筆者が群馬大学附属病院で, 受持医として治療を開始した約120例の分裂病者と患者の, いわば症例集である, 長年臨床家として御活躍された筆者と患者との生々としたケースレポートで, 論者に与える感動は大きい. Iの基礎編で, この数々の症例が, それぞれの立場から受診型, 能動型の区別の基に症例検討され, 各ケースの終りは小括がなされている. IIの理論編では, こうした筆者の貴重な治療経験に基づいて, 1臨床精神医学方法論, 2受療状況の変容, 3生活論, 4治療論, 5経過と予後, 6成長と成人化, と明確に理論的整理がされていて初心者にも, また, 細部まで示唆される点は大きいと確信する. これたちは, 精神科OTセミナーで学生側から積極的に本論文がとり挙げられ, 具体的ケースを通じて分裂病者の生活像把握とその治療者としてのかかわり方, 更に精神科OTとの関連において, 分裂病者の社会生活の視点を置いた生活相談, 身の上相談, 生活のカウンセリングといった立場を模索し, 学びつつある. つまり, 譲る的ケーススタディとして, また, OTの理性的的整理の一助としても果たす役割は大きく, 職業的意味合いも高い. 精神科OTの理論化を, 本書の生活病学に名を借りた考察のうえで, 貴重な助言であり, 是非一読をおすすめする.

（A 5, 頁 304, 図 8, 医学書院, ¥ 4200, 1978）
（九州リハビリテーション大学校 作業療法士 大丸 幸）